

立命館大学大阪いばらきキャンパス講座

第10回ガーデニング講座

夏を涼しく過ごすガーデニング

とき 2016年7月9日(土) 午前9時30分～11時30分

場所 立命館大学大阪いばらきキャンパスB棟3階
コロキウム(B374)

プログラム

- 1 季節のガーデニングのツボを押さえる一季節の手入れ
・夏の乗りきり方を中心に、季節ごとのポイントを伝えます。
- 2 ウォーターガーデンにチャレンジ
・室内でも、バルコニーでも、庭があればもちろん・・・
どこでも簡単に出来るウォーターガーデンの作り方、育て方
・ウォーターガーデンに向けた植物の現物紹介

講師 高田 昇
都市プランナー・ガーデンデザイナー・立命館大学客員教授
嶋かずみ(アシスタント)
ガーデナー・一級造園施工管理技士





JAMESON DUBLIN INTERNATIONAL FILM FESTIVAL

2015年ダブリン国際映画祭
観客賞選出

アイルランドの田舎娘が、“雑草”で世界最高峰の
《チェルシー・フラワーショー》に挑む!?

Wild Flowers!?

わたしの庭が、世界を変える

Thank you for my gift
would be garden design
at the Chelsea Flower Show

LOVE

The Prince of Wales

Woo-hoo!

フラワーショー!

Dare to Be Wild



エリザベス女王も感動した、本当に美しい庭とは—?
実話に基づく、爽快サクセス・エンターテインメント!!



heehaw



映画「フラワーショウ！」に描く
メアリー・レイノルズの世界

自然であることを恐れずに
Dare to be wild

人は自然の美しさを求め世界中を旅します。

しかし、現代の庭園は自然が本来持っている

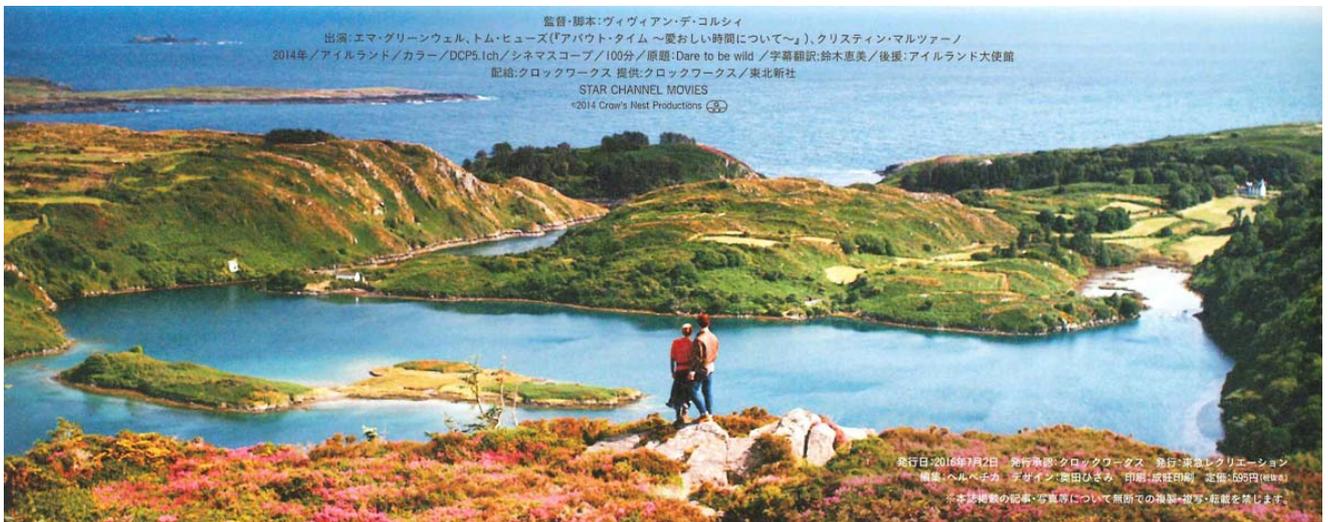
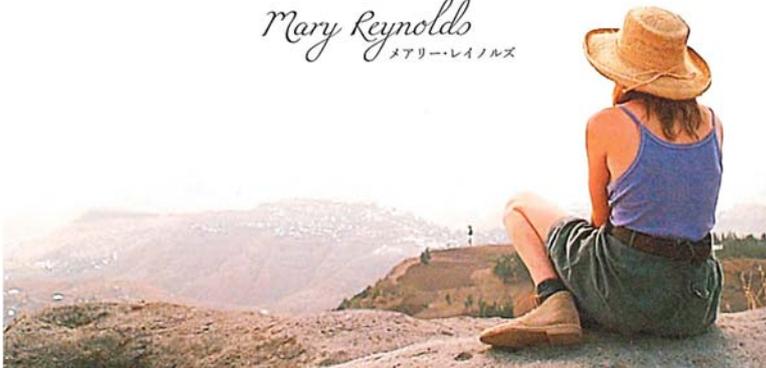
素朴な美しさを見失っている……

この素晴らしい自然が永遠に失われる前に、

私たちはそれぞれのやり方で守っていくべきです。

—チェルシー・フラワーショー願書

Mary Reynolds
メアリー・レイノルズ



監督・脚本：ヴィヴィアン・デ・コルシイ
出演：エマ・グリーンウェル、トム・ヒューズ（「アバウト・タイム～愛おしい時間について～」）、クリスティン・マルツァーノ
2014年/アイルランド/カラー/DCP5.1ch/シネマスコープ/100分/原題：Dare to be wild / 字幕翻訳：鈴木恵美 / 後援：アイルランド大使館
配給：クロックワークス 提供：クロックワークス/東北新社
STAR CHANNEL MOVIES
©2014 Crow's Nest Productions

発行日：2016年7月2日 発行高松：クロックワークス 発行・東京：クリエイション
編集：ヘルベチカ デザイン：奥田ひまみ 印刷：成社印刷 定価：599円(税別)
※本誌掲載の記事・写真等について無断での複製・転写・転載を禁じます。

1 季節の手入れ

草木のライフサイクルは、季節の移り変わりと共にあります。そんな草木の生き方を理解し、守り、寄り添う気持ちをもつことで、草木を励ますこと＝手入れのコツとなります。

| 季節 | 季節の特徴 | 手入れのポイント |
|--------------------------|---|--|
| 1 真冬 年末～2月 | <ul style="list-style-type: none"> 多くの植物は生長を止める 春に備え、地中では冷温とバクテリアで土が再生する時期 | <ul style="list-style-type: none"> 休眠期は大がかりな剪定も可(落葉樹) 常緑樹(非耐寒性)の剪定は避ける 寒肥(土を掘って肥料を埋める) |
| 2 早春 3月～4月初 | <ul style="list-style-type: none"> 気温はまだ低くても、日が長く、光も強くなり、自然界は生命力に満ちる 豊かな土、春光により根が張り、新芽や蕾がふくらむ | <ul style="list-style-type: none"> 新芽の出る前に込み合った枝や枯枝、病気枝はカット(常緑樹) 春らしく、庭のイメージチェンジをする絶好のタイミング |
| 3 仲春 4月中頃～5月 | <ul style="list-style-type: none"> 多くの植物が最も旺盛に生育する 日差しがいつそう強まり、夜が短くなって、芽吹き、開花を誘う | <ul style="list-style-type: none"> 低木性の花木の剪定は花後すぐ(落葉樹) 必要なところは薬剤散布 草花の施肥 |
| 4 初夏 6月～7月初 | <ul style="list-style-type: none"> 大半が梅雨と共に過ごす時期 広葉樹の多くが白い花を樹上に付ける(ヤマボウシ、ナナカマド、ヨソゴ、クチナシなど) | <ul style="list-style-type: none"> 伸びすぎた枝の刈り込み(常緑樹) 高温多雨で、みるみる雑草が繁るので、こまめに除草 散水は雨の具合を見計らいながら |
| 5 真夏 7月中頃～8月 | <ul style="list-style-type: none"> 水を含んだ土、高温、長い日照で多くの植物は日ごと生長する 花木類は花芽ができる(落葉樹) | <ul style="list-style-type: none"> 花芽のできた枝の剪定はさける 「水分補給」に気を付け、夕方に打ち水、葉水などの気配りを 必要な植物には遮光を |
| 6 初秋 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 高温多湿向きの植物から、夜長を好む植物に入れ替わっていく季節 真夏は半休眠していたり、力を弱めていた植物で再生するものが多い | <ul style="list-style-type: none"> 必要なところは薬剤散布 夏の後半、弱ってきたり、徒長しすぎた場合は切り戻しなどで再生の応援 緩効性肥料や伸びすぎた茎をカットしてサポート |
| 7 仲秋 10月～11月中頃 | <ul style="list-style-type: none"> 1年で最も落ち着いて自然と向き合える季節 枝の生長は終わり、花木は花芽を付ける | <ul style="list-style-type: none"> 剪定は軽く樹形を整える程度 花期の長い1年草を長持ちさせながら耐寒性宿根草の植え替え |
| 8 初冬 11月末～12月 | <ul style="list-style-type: none"> 冬眠に入り始める宿根草、花芽を出し始めるクリスマスローズ、ツワブキと植物の性質の違いがよく表れる 球根類(チューリップ、ヒヤシンスなど)の根が生長する時 | <ul style="list-style-type: none"> 草花の施肥 タイミングを見計らって、宿根草の地上部の刈り取り(半分ほど残すのも一手) |

草木の手入れのポイント

「自然」と見える多くの山林であっても、枝打、間伐、下伐などの手入れを怠ると、荒れ放題となり弱っていきます。ましてや人工的に土を入れ、肥料を施し、自分たちの好みの植物を取り入れ、年中緑や花、実を楽しみたい・・・そんなガーデンでは、適切な手入れが欠かせません。

ただ、あまり手を入れ過ぎない、刈り込んだ「幾何学模様」の庭にはしない「ナチュラルガーデン」をめざす私たちにとっては、「程よい手入れ」「過保護は避ける」コツを身につけることが大切となります。

🌿 日常、ふだんの手入れ

数日、1ヶ月という単位での手入れ。

草花類(草本)ではこれが欠かせません。樹木(木本)ではあまり気にしません。水やり、花がら摘み、(切り戻し、除草、除虫)、健康チェックがその主なものです。

🌿 季節、折々の手入れ

何ヶ月、季節、年という単位での手入れ。

樹木ではこのレベルの手入れが主となります。整姿・剪定、施肥、除虫(薬剤散布)がその主なものです。草花では、植え替え、補植がポイントです。



〈植栽管理年間作業例〉

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|-------|----|----|----|----|-------|-------|----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 樹木剪定 | | | ■ | | | | | | | | ■ | |
| 樹木施肥 | | | | | | | | | | | ■ | |
| 薬剤散布 | | | ■ | | | | ■ | | | | | |
| 芝生刈込み | | | | | ■ | | ■ | | | | | |
| 除草 | ■ | | ■ | | ■ | | ■ | | ■ | | | |
| 草花施肥 | | | ■ | | | | | | ■ | | | |
| 草花補植 | ■ | | | | ■ ■ ■ | ■ ■ ■ | ■ | | | | | |
| 草花手入れ | ■ | | | | | | | | | | ■ ■ ■ | ■ ■ ■ |

2

夏を涼しく、爽やかに過ごす

ガーデニング

日本の夏は「高温多湿」。夏野菜類をはじめ、ルドベキア、エキナセア、そしてレモングラスやシマトネリコのように、そんな環境が好みの植物も少なくありませんが、やはり人間にとっては少しでも強日の光も涼しく感じ、爽やかな風を感じたいものです。

寒さ厳しい冬の庭の赤い花や実にはほっとすることがあるように、せっかくガーデニングをしているのだから、「夏なんて怖くない」ガーデンの一角がほしいですね。

その工夫の一端を紹介します。

①クールな「カラーガーデン」

涼しさ、爽やかさを感じるのは、何といてもブルー・パープル、そしてホワイトではないでしょうか。まずそんなカラーガーデンは、間違いなくおススメです。

青・紫系 ……サルビア、ボックスージ、ラベンダーセージ、ロシアンセージ、アガパンサスなど
白系 ……カシワバアジサイ、アジサイアナベル、シマトネリコ、ユーフォルビア、
ブッドレア(白)など



②ツル性の植物で「ウォールガーデン」

緑のボリュームアップが何といても一番効き目がありそうです。多くの葉そのものが気候緩和の機能をもっているし、見た目にも涼し気です。そして壁や塀の温度を下げる役割もはたしてくれる優れモノ。

定番のアイビー・ワイヤープランツ・プミラの他、トケイソウ、クレマチス、ジャスミンも花の色、香りで応援してくれるし、「日本人の知恵」アサガオも欠かせませんね。



③暑さを忘れさせる「エディブルガーデン」

「エディブルガーデン」は、野菜やハーブ、果物など食べられる植物を主体に植えられたガーデンです。「エディブルガーデン」は五感を刺激し、花や緑、実、香りを楽しめる「ヒーリングガーデン」とも言えます。

バルコニーでも手軽に育つミニトマトやパセリ、バジル、そして「夏ハーブ」の主人公とも言えるレモングラス、レモンバーム、レモンバーベナといった「柑橘系」、キャットミント、オレガノなど色も涼し気なハーブと、使える植物はいっぱいあります。



④夏を楽しむ「トロピカルガーデン」

どうしても暑いことには変わらないのなら、居直って「思いっきり夏」を感じさせる植物を取り入れて、トロピカルムードの中でリゾート気分を味わうのも一手。効き目のある植物の例として・・・
ブーゲンビリア、エキナセア、ノーゼンカズラ、サルスベリなど



⑤水と水草のある「ウォーターガーデン」

究極の「夏対策」は、やはり「水」が身近にあることでしょう。それも簡単にテーブルの上でも取り入れられることから、庭に本格的な「せせらぎ」やビオトープをつくることまで、バリエーションは広がります。代表的な方法として・・・

- A … ガラスの器と水草の組み合わせ
- B … 水鉢(陶製)に水をはって、花を活けたり、水草を入れる
- C … 庭に壺を埋め込んで、ハスなど水草を入れる
- D … 庭に小さな池を掘ってウォーターガーデンをつくる

(1) 涼しい色 …………… ブルー・パープル・ホワイトガーデン



(2) 壁面・柵など「緑の壁」を広げる …………… アイビー・アサガオ・クレマチス・ツルバラ



(3) 太陽の季節を感じるポイント植栽

……ブーゲンビリア・サルスベリ・ノーゼンカズラ・
エキナセア



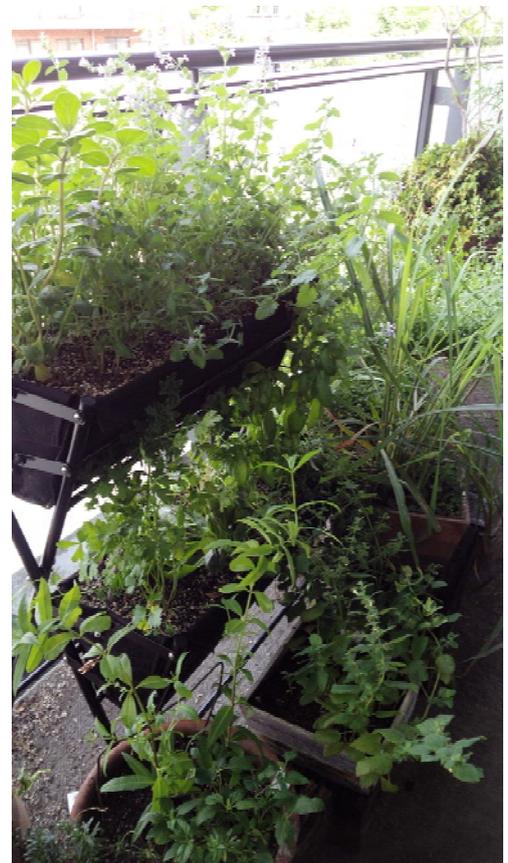
(4) 暑さを吹き飛ばす「食欲」のガーデン(写真左下)

……ミニトマト・バジル・パセリ

(5) 夏を乗り切る強い味方——ハーブの仲間たち(写真右下)

「立体ガーデン」で多種類のハーブを育てる

……バジル、イタリアンパセリ、レモングラス、レモンバーム、レモンバーベナ、
サラダバーネット、チコリ、ルッコラ、ミント、キャットミント、ラベンダー、カラミンサ



3 「水景」の演出





8



9



10



11



Dalia

12



13



14



15

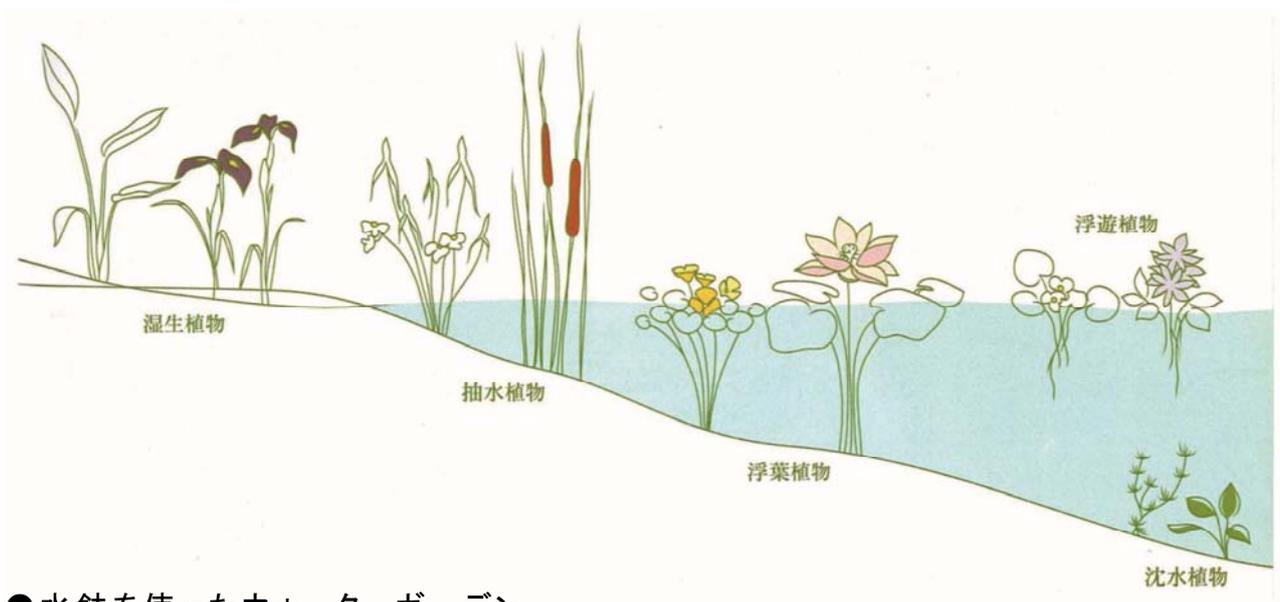


16

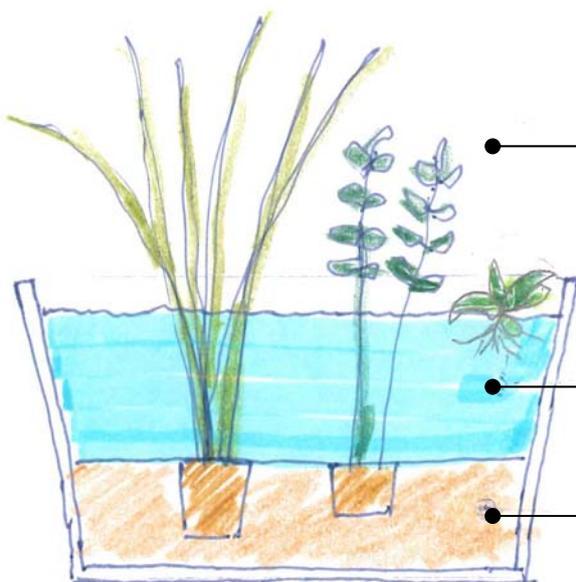
4 ウォーターガーデンへの誘い

ガーデニングは「土のあるところ」ばかりではありません。水と水辺が今までにない新しいガーデニングの世界をみせてくれます。水があることで、変化のある環境が生まれ、多くの植物が仲間入りできます。そしてメダカやトンボも……

インテリアの小さな器から庭や広場に池をつくることまで、どこでも、誰でもウォーターガーデンになれるのです。



●水鉢を使ったウォーターガーデン



置き場所は、できるだけ屋外
(明るく、風通しのよい屋内も可)

足し水(状況により水換え)
※水換えはできるだけ少量ずつ

用土=荒木田土(田んぼの土)
※川砂、有機肥料を混ぜる場合も

(1)水辺の五つの世界

遠くから見れば、何の変哲もない水辺の風景。でもそこには思いもかけず豊かな植生バランスが広がっているのです。場所によって生息する植物の特徴はさまざま。水際の湿った場所を好むもの、水中に根をおろすもの、花や葉だけを水面に出すもの、水面を漂うもの、そしてすっぱり水中に沈んでいるものなど、大きく五つの世界が広がっています。

湿生植物

水際の湿地に育つ植物を湿生植物と呼びます。湿原には低い場所や高い場所があり、水辺の水位の変化に比較的順応しやすいため、抽水植物との区別ができないものもあります。種類も多く、形や特性も変化に富んでいます。また色とりどりの花をつけるものも多いので、寄せ植えのアクセントや複数の花で花期を変えて長く楽しむこともできます。

Point

普通の花壇でも育ちますが、もともと湿地や湿原に生育する種類ですから抽水植物と同じように育てられます。



エゾミソハギ
Lythrum salicaria
分類/ミソハギ科ミソハギ属
原産地/日本、ユーラシア、
アフリカ北部
草丈/100cm

花の少ない8月、あでやかなピンクの花を穂状に咲かせます。ミソハギとともにウオーターガーデンの花ものとして貴重な存在です。
[育て方] 丈夫で栽培は容易。湿地、水辺に直接植えても可。3年に1回程度、株分けして更新を。



カラー
Zantedeschia aethiopica
別名/オランダカイウ
分類/サトイモ科ザンテデスキア属
原産地/南アフリカ
草丈/90~100cm

花壇や切り花でおなじみのカラーには普通種と湿生種があり、園芸品種も多数あります。6~8月に白や赤みがかった花を咲かせます。
[育て方] 粘土質土壤に植え、多水分を好むので水をきらさないように。



カンナ
Canna
別名/ダンドク
分類/カンナ科カンナ属
原産地/熱帯アメリカ
草丈/120~150cm

湿生種と普通種があり、両種とも水生植物として扱えます。特に湿地性のハイブリッド・ウオーターカンナ(写真)はおすすめ。別種、別属のミズカンナも同様に扱えます。
[育て方] 鉢植えを水槽で栽培。



ワスレナグサ
Myosotis scorpioides
別名/ウオーター・フォゲット・ミー・ノット
分類/ムラサキ科ワスレナグサ属
原産地/ヨーロッパ、アジア
草丈/15~30cm

あの有名な伝説のもとになったワスレナグサで、花壇でおなじみの種類とは別種。5~8月に、ピンク、黄または白の目を持つ明るいブルーの花を咲かせます。
[育て方] 半日陰で育てます。



アメリカフヨウ
Hibiscus moscheutos
別名/クサフヨウ
分類/アオイ科ハイビスカス属
原産地/北アメリカ
草丈/100~180cm

乾燥地でもよく育ちますが、本来湿地帯原産なので抽水植物として栽培できます。近縁のモミジアオイも同様です。
[育て方] 性質は強く、栽培容易。ハマキムシに注意します。



ハンゲシヨウ
Saururus chinensis
分類/ドクダミ科ハンゲシヨウ属
原産地/アジア、北アメリカ
草丈/80~100cm

7月上旬、茎の上部についている葉が半分以上白くなって、涼しげな印象。山野草としても高い人気を誇ります。
[育て方] 水際の泥土に直接植えても、浅めの水鉢に植えてもよく育ちます。丈夫で、栽培は容易です。



ドクダミ
Houttuynia cordata
別名/ジュウヤク
分類/ドクダミ科ドクダミ属
原産地/日本、中国、ヒマラヤなど
草丈/30~50cm

耐陰性があり、特に、八重咲き種やカラフルな葉を持つゴシキドクダミ(写真)はウオーターガーデンの効果的なアクセントになるでしょう。
[育て方] 日陰で育てます。

抽水植物

水辺の水深の浅い場所、湖沼や水田の土中に根をおろし、茎や葉を水面から上に伸ばすものが多く、きれいな花をつけるものや育てやすいものも多いので、水辺の主役にもなります。

Point

根が水につかっているだけで育つので、穴のない鉢に植え込んで庭やベランダに置いて楽しむこともできます。市販の水蓮鉢の深さが栽培するのに最適です。高さの異なる抽水植物グループの寄せ植えは初心者向きです。



ディクロメナ
Dicrbomëna colorata
別名/シューティングスター
分類/カヤツリグサ科ディクロメナ属
原産地/北アメリカ 草丈/30~40cm

近年出回った水草で、初夏から秋まで白い星形の美しい花(正しくは苞葉)を、多数咲かせます。緑の葉とのさわやかな印象を夏のスペースに与えます。
[育て方] 屋外でも越冬可能。防寒すれば開花期が早まります。



ショウブ
Acorus calamus
分類/サトイモ科ショウブ属
原産地/ユーラシア大陸、北アメリカ
草丈/50~90cm

全体に芳香を持ち、菖蒲湯などで古くから親しまれています。葉に縦縞の入る斑入りショウブや、葉の表が白、裏が緑の園芸品種もあります。
[育て方] 日当たりのよい、有機質に富んだ湿地を好みます。



シベラスパピルス
Cyperus papyrus
別名/カミガヤツリ
分類/カヤツリグサ科カヤツリグサ属
原産地/北アメリカ、中部アフリカ
草丈/1.5~2m

細い枝を束状に伸ばし無数の花軸を分枝させ、茶褐色、球形の花穂をつけます。
[育て方] 腐植質に富む田土などの重い土で鉢植えにし、夏の間は根がつかると浅い水中に。冬は室内で。



ハス
Nelumbo nucifera
別名/ハチス
分類/スイレン科ハス属
原産地/熱帯・温帯アジア、南北アメリカ
草丈/100~150cm

江戸時代から栽培され品種は多数。6月下旬から8月下旬、早朝に花を開き、昼前には閉じてしまいます。
[育て方] 大型の容器に単独で植え、毎年植え替え。高温、多肥を好みます。



オモダカ
Sagittaria trifolia
別名/ハナグワイ
分類/オモダカ科オモダカ属
原産地/日本、温帯、熱帯アジア
草丈/20~80cm

高く伸びた葉柄に、人間の顔のように見える葉身がついているので「面高」。8~10月に、清楚な白い花を咲かせます。写真は八重咲きのヤエオモダカ。
[育て方] 夏の日ざしにも強く、丈夫。腰水栽培も可能です。



ポンテデリア
Pontederia lanceolata
分類/ミズアオイ科ポンテデリア属
原産地/北アメリカ
草丈/80~100cm

槍形で光沢のある暗緑色の葉の間から、涼しげな青い小さな花を密につけた、長さ10~20cmの花穂を6~9月に伸ばします
[育て方] よく日の当たる場所で育てます。屋外で越冬します。



コウホネ
Nupbar japonicum
別名/センコツ
分類/スイレン科コウホネ属
原産地/北アメリカ、日本
草丈/20~30cm

4月頃、水中葉と水上葉を出し、5~10月に水上に花茎を伸ばし、その先端に黄色の花を咲かせます。径4~7cmの椀状の花と太い花茎のバランスは愛敬があります。
[育て方] ワサビ状の根茎を5~6号の鉢に植えて、沈めて栽培します。

浮葉植物

浮葉植物は水底に根を張り、水面にぴったりとはりついたように葉を浮かせる水草で、水中から生長しながら葉の形を変化させ、水深のある場所でも対応できるのが特徴です。ミズガシラや蓮など、この仲間の花は色や形が美しく魅力的で、ウォーターガーデンに彩りと華やぎを与えてくれる種類が多いタイプです。

Point

最も水深が必要な種類ですから、水をきらさないように管理します。



ウォーターホビー
Hydrocleys nymphoides
別名/ミズヒナゲシ
分類/ハナイ科ヒドロクレイス属
原産地/ブラジル、ベネズエラ
草丈/7~10cm

愛らしい花と光沢のあるかわいいうる葉で人気の高い水草。6~10月に、花茎の先端に、花径4~5cm黄色の花を次々と咲かせます。
[育て方] 水槽の底に泥を入れて直接植え込む鉢植えにして水に沈めます。冬季は室内で保護。



ルドビギア
Ludwigia sedioides
分類/アカバナ科ルドビギア属
原産地/ブラジル

雪の結晶のように、繊細な細い葉を放射状に広げて水面に浮かべます。日当たりのよいところで育てると、葉の周辺が赤く発色して、独特の美しさで楽しませてくれます。7~9月に鮮やかな黄色の花を咲かせます。
[育て方] 寒さには弱いので、冬季は室内で保護します。



耐寒性スイレン
Nymphaea
別名/ウォーターリリー
分類/スイレン科スイレン属
原産地/熱帯、亜熱帯、温帯

温帯に分布するスイレンで、葉が小さく、花は水面に浮かびます。6~9月に咲く花は昼咲き種のみで、夜咲き種はありません。写真は花色が変化するインディアナ種。
[育て方] 栽培には、少なくとも水深30cmは必要。小型種は4~8号鉢、中~大型種は7~10号鉢が目安です。



熱帯性スイレン
Nymphaea
別名/ウォーターリリー
分類/スイレン科スイレン属
原産地/熱帯、亜熱帯、温帯

葉が大きく、花は水面上に飛び出して咲きます。昼咲き種と夜咲き種があり、耐寒性スイレンにはない青色の花など、魅力的な園芸品種が多数。写真はレッドフレア種。
[育て方] 鉢植えで栽培する場合は、水深30~50cmは必要です。冬季は室内で保護します。



ガガバタ
Nymphoides indica
分類/ミツガシラ科アサザ属
原産地/日本

アサザの仲間、卵のような楕円形のつやのある葉を水面に浮かべます。7~9月には中心部が黄色で、裂片の内側に白く、長い毛を持つ特徴的な白花を咲かせます。
[育て方] 池底などのような肥沃な用土で育てます。



アサザ
Nymphoides peltata
別名/ハナジュンサイ
分類/ミツガシラ科アサザ属
原産地/南アジア

晩春から秋まで、花弁の縁に毛を持つ花径3~4cmの黄色の花を咲かせます。花は朝開き、昼には閉じてしまう一日花。近縁種に、ヒメシロアサザがあります。
[育て方] ガガバタ同様、池底などのような肥沃な用土で育てます。



ジュンサイ
Brasenia schreberi
別名/ヌナワ
分類/スイレン科ジュンサイ属
原産地/日本

長さ5~10cmの楕円形の葉を水面に浮かべ、5~8月に、花径約2cmで紫紅色のよく目立つ花を咲かせます。若芽は独特の風味とぬめりが好まれ、食用にされます。
[育て方] 水深20~30cm以上で育てます。水が汚れると枯死するので、まめに水をかえること。

浮遊植物

よく知られるキンギョソウなどの「浮き草」。シダ類、ミズアオイ科、などに分けられます。水底に根をおろさずに水面を漂う浮遊植物は、いわゆる浮き草。強い光があれば増殖する丈夫な性質です。風に揺られて水面を漂う姿には趣きがあり、夏の暑い盛りには、涼しさの演出にも最大の力を発揮します。

Point

水に浮かべるだけの簡単栽培ですから、ガラスや焼き物の大鉢に入れて室内やベランダでウォーターガーデンを楽しめます。旺盛な繁殖力があり、強い光で繁殖するのでときどき間引きが必要ですが、適度に水面を覆うので水温の上昇抑止の役目もあります。



ウォーターレタス

Pistia stratiotes

別名/ボタンウキクサ

分類/サトイモ科ボタンウキクサ属

原産地/熱帯アフリカ

草丈/5~12cm

肉厚でピロード状の特徴的な葉は、この植物ならではの独特の質感。日中は開いていますが、夜間には半ば閉じてしまいます。6~9月に小さな花を咲かせます。

[育て方] 日当たりがよければよくふえます。冬季は室内で保護。



ホテイアオイ

Eichhornia crassipes

別名/ウォーターヒヤシンス

分類/ミズアオイ科ホテイアオイ属

原産地/南米

草丈/20~30cm

ブククリとふくらんだ葉の根元がかわいいホテイアオイは6~10月に、長さ約12cmの穂状花序に美しい薄青紫色の花を多数、次から次に咲かせます。強健で、日当たりさえよければ、放っておいてもどんどんふえるほど丈夫です。

[育て方] 非耐寒性多年草なので、冬季は室内で保護します。



ヒシ

Trapa japonica

分類/ヒシ科ヒシ属

原産地/中国、朝鮮半島、日本

水深2m以内の池や沼などに群生し、水面をびっしり覆います。夏から秋まで、清楚な白い小花を次から次に咲かせます。実は食用になり、塩ゆでにするとクリに似た風味があります。黄色の花はウトリキュリアの1種。

[育て方] ホテイアオイが生育を阻害するので一緒に育てないこと。



オオサンショウモ

Salvinia auriculata

分類/サンショウモ科サンショウモ属

原産地/熱帯

水面に浮く葉の並び方がミカン科のサンショウによく似た水生シダ植物。葉の大きさや幅が小さいサンショウモ (*S.natans*) は日本産で、夏の水田でよく見かけます。

[育て方] 繁殖力が旺盛。水面が全部覆いつくされると水が腐るので注意しましょう。

沈水植物

根も茎も水底に沈んでいるものを沈水植物と呼びます。完全に沈水して葉や茎が水面に出てきません。ふだんは水中で生活するタイプの水草は、繊細で美しい葉を持つものが多くアクアリウム(水槽栽培)でも広く楽しまれています。

Point

ある程度の光があれば水槽で楽しめます。光が当たりすぎると水槽にコケがつく場合がありますが、タニシや石巻貝などを入れると食べてくれます。バイカモなど冷たい流水を好む種類は池や鉢など止水での栽培はまず難しく夏越ししにくいです。他の沈水の仲間には通称キンギョモと呼ばれるマツモ、ハゴロモモ、カボンバなどがあり、水槽や深鉢の水底に植えつけます。



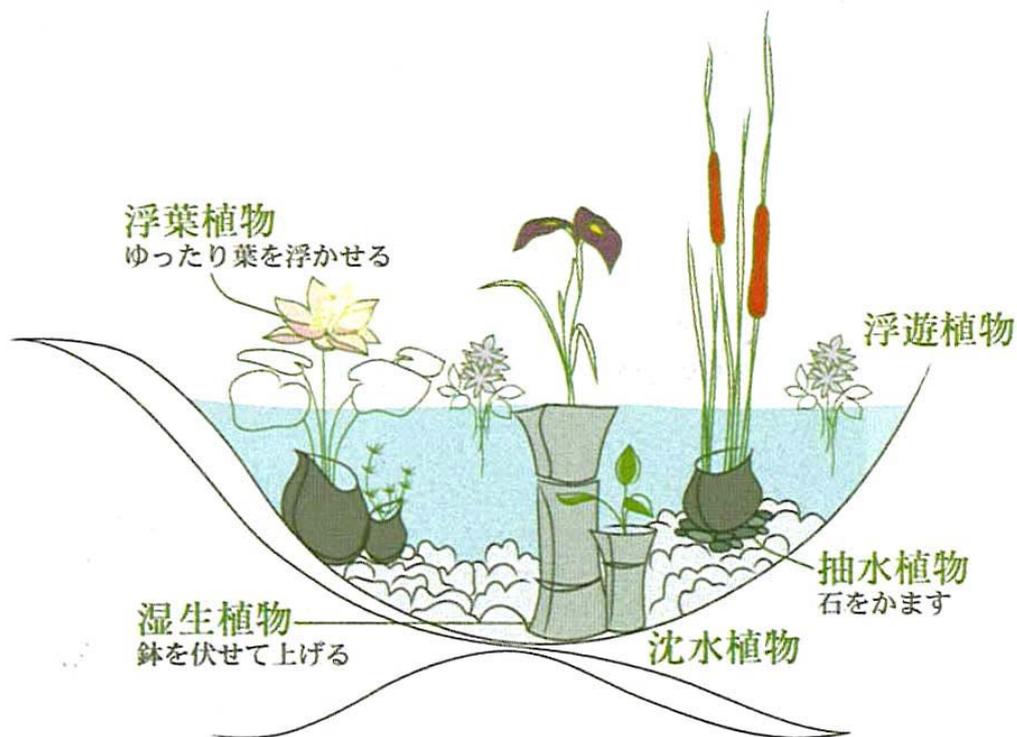
ある程度の光があれば水槽で楽しめる沈水植物は、金魚鉢によく入れるフサモやマツモなどいろいろあります。写真は右から、白い花が咲くカボンバ、水中外でも育つリシマキア・オーレア、赤い葉が美しいルドビギア・ナタンス。ほかにもアヌビアス・ナナ、ウオーター・バコパ、アナカリスなどがおすすめ。光が当たりすぎると水槽に苔がつく場合もありますが、タニシや石巻貝、沼エビなどを入れると食べてくれます



写真右から、バイカモ/梅に似た小さな白い花をつけることからこう呼ばれている。3～11月に水面に花を咲かせる。水底が砂で冷たくきれいな川に多く生息する。茎が中空になってとても折れやすい。ミズオオバコ/花がアサガオに似ていることからミズアサガオとも呼ばれる。8～10月に一日だけの花を咲かせる。葉はオオバコに似て広くて筋がある。

(2)ミニ・ウォーターガーデンのつくり方

水盆の鉢は深さや大きさ、形が目的に合うものを選びます。実際に寄せ植えをするときの留意点としては、なるべく広口の鉢を選び、水を張って、ポットごと鉢に沈めると管理がしやすくなります。自然の景観を思い浮かべ、棲み分けの性質を意識してそれぞれの環境に合った水位に設置します。水位調節は下のイラストのように、鉢などを伏せて重ねたり、石を沈めてその上に置くなどの工夫をするとよいでしょう。



鉢の利点を生かして、軒先や玄関口、庭のポイント的な位置などに、それぞれ種類を変えたミニ・ウォーターガーデンを配置するのもひとつのアイデア。個性的なスペースづくりに挑戦してください。

(3)ウォータースペースのつくり方

ウォーターガーデニングは本来、庭に池をつくり水生植物を育てるものです。しかし、庭に穴を掘って、コンクリートを流したり、ビオトープ仕様にするだけでなく、水がたまる容器があれば気軽につくることができます。材料はプラスチックやガラス、焼き物などなんでもよいですが、まわりの景観とマッチする素材を選んで、素敵なウォータースペースを構成します。

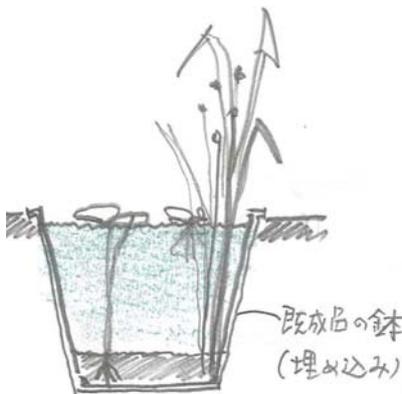
ウォータースペースのつくり方の3つのパターンをご紹介します。

■直接穴を掘るスペースづくり(ビオトープ仕様)



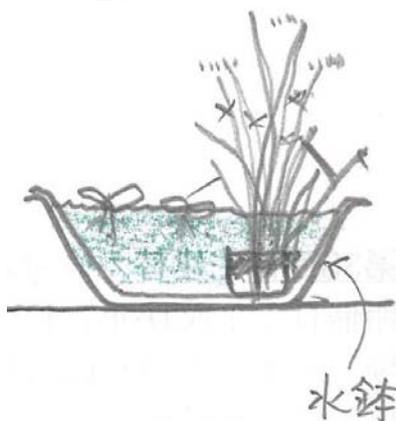
オープンエアのウォータースペース。

■土に鉢をそのまま埋め込むスペースづくり



花壇の中に鉢を、半分は見えるように埋めこんだウォーターガーデン。周囲に植えた斑入りアプテニア、クロサンドラ、アベリアなど見事に調和している。イラストのように鉢を沈める深さは、種類によってブロックなどで調節するとよい。

■水鉢を使ったスペースづくり



大きめの鉢に苗ポットごと沈め、玉砂利や浮き草でポットを隠す。植物を簡単に入れ替えられるのが特徴。

■水面を見せたコーディネート

いろいろな植物の種類や数を増やして水面を隠してしまわず、水面をなるべく見せるようにして、まわりの植物の映り込みや水の動きを楽しんでください。一般の植物と水生植物との不思議なハーモニーを楽しむことができます。特に夏場、生育旺盛な浮遊植物は少なめに浮かべておくほうが涼しそうに見えます。増えてきたら適宜、整理するようにしましょう。

■葉の形や花の色で周囲の植物との調和を

水生植物はカラフルな色彩の花がそれほど多くありません。組み合わせは、ふわふわしたウォーターレタス、つるつとしたホテイアオイ、すらつとしたシマフトイなど、葉の素材感や形を楽しんだり、素朴な花を生かした構成が基本です。いろいろな葉ものと、小花がたくさん咲く花ものとの組み合わせは相性がよく、互いによく映えます。同じ種類を使うなら、斑入りのものを合わせたりするとよいでしょう。

■水と害虫に注意

置き場は午前から昼過ぎまで日の当たる場所が理想です。ただし真夏の時期は水が熱くなりすぎると植物が弱るので、小さすぎる容器は避け、西日が当たらないように。

水の入れ替えは基本的には不用です。減った水を追加するだけで十分です。藻類が発生したり水が汚れてきたら掃除します。

注意する害虫はアブラムシ、ヨトウムシ。こまめにチェックして発見したらすぐ駆除を。

■冬期は室内管理を

ホテイアオイやウォーターレタスなどの浮遊植物は、水を入れたコンテナなどに浮かべて日当たりのよい窓辺に置くとよいでしょう。冬のインドアガーデンとして楽しめます。浮葉植物のスイレンなどは、冬でも、水が凍らないよう注意して水を張った状態にしておきます。パピルスやシロガヤツリなど抽水植物や湿生植物は特に水につけておかなくても平気です。

■室内で育てる場合に気をつけたいこと

水生植物の多くは、夏の高温と日光を受けて成長するため、室内で育てる場合は、窓辺などの日がよく当たる場所に置くとよいでしょう。水温が上がりすぎないように気をつけ、時々は日光に当てます。枯れた葉は取って腐らせないようにしましょう。

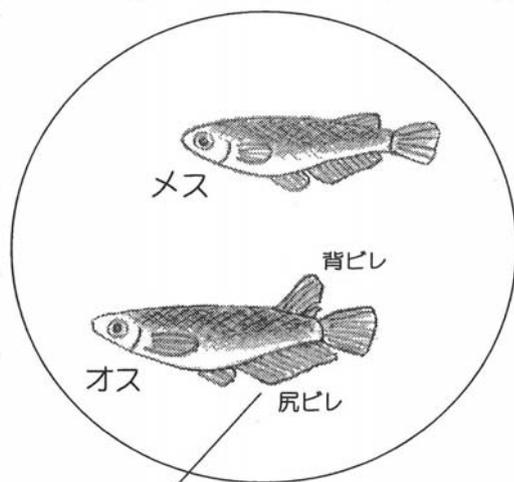
(4)メダカの世界

水鉢を使ったミニ・ウォーターガーデンが出来上がったなら、そこにもう一つの世界をくり広げることもおすすめです。

メダカを育ててみましょう。虫対策も兼ねてメダカを入れると、楽しさが何倍にもなります。

■メダカの飼い方

水草などを入れてメダカを入れます。水は一ヶ月に一回くらい1/3から半分取替えましょう。頻繁にする必要はありません。水質が良さそうなら、減った分だけ加えるやり方でもよいでしょう。水草、ホテイアオイなどはエアープンプのかわりになり、水をきれいにします。産卵期は4月から10月で、透明でつらな卵をぶら下げて泳ぎ、水草につけていきます。水温が20度くらいあれば10日ほどでふ化し、2、3ヶ月で成魚になります。生まれたばかりの稚魚は親に食べられてしまうので、しばらく別の容器で飼育するか、隠れ家の水草をたくさん入れておいてあげます。



オスは背ビレが鋭く深く切れており、尻ビレが長いのが特徴です。



5 「ビオトープ」をつくってみよう！

